

評論文の読み方①

この单元は「評論文」を読む上で、陥りやすいポイントを指摘し、「著者は何を伝えようとしているのか?」を正確に受け取れるようにすることが目的である。

○「評論文」とは?

評論文は「文芸評論」から、「音楽」「美術」「政治」「経済」「社会」「科学」「スポーツ」etc.と多岐にわたっている。「意見文」との違いは、その「意見」に「論理的裏付け」を付けて「読者に納得してもらいたい。」という意図を持つ文章である。

「隨想」との違いがあるが、隨想は「論理的裏付け」を必要とせず、「感覚的に納得してもらいたい」というものである。よつて「雰囲気」や「感情」を「共感」してもらいたいという著者の思いがある。しかし、厳密には「評論文」と「隨想」の線引きは難しく、教科書でも「評論」のジャンルに載っているが、「隨想」と何が違うんだろう? という文章もある。

1 「論理的裏付け」

「論理的裏付け」とは、「読んだ読者が誰もが納得する」ことを目指して書いた「根拠」である。それは著者や読者が感覚的に「そうだなあ」という共通認識を持っているものや、科学的真理をもとにしたものまで様々である。読者によってはそうだよなあ」と思えるほど「共通認識」を持つていなかつた(常識知らず)り、「科学的真理」を理解不可能だったりする場合もある。しかし、少なくとも教科書や入試問題に書かれてあるものは教科書掲載者や出題者が「論理的裏付けがなされている」と判断したもののなので、「裏付けがなされているもの」として読んでいくしかない(もちろん例外もある)。

2 なぜ「難しき」のか?

評論文は「難しき」とよく言われる。人間が「難しき」をどうにか感じるのは、というと、

自分の頭の中の考えるパターンにその文章の中身が当てはまらない時だ。簡単に言えば「経験不足」「読書不足」ということになる。これは評論文だけに限ったことではない。(後述 参照)
一般的に「評論文」の難しさはその抽象性にある。具体的に書かれた小説のような文章はその登場人物に共感できれば理解可能になる。しかし、評論文の目指すところは抽象的に書いていろんな場面に当てはまる」と(普遍性)をねらいとしている。たとえば、

1年3組の

さんは、英語に興味がない。

という文章と、

日本人は外国文化に興味がない。

という文章では後者の方が抽象的であり、普遍的である。一般的に後者のようなものを目指して書かれるのが評論文である。具体から抽象への変換の部分で共感を持てなくなるから「難しさ」が生じる。抽象的なものを記述するのに抽象的な言葉を使わなければならない。実際この私が書いている文章もいろんな場合に当てはめたいので抽象的なものになっている。
また、難しいことを記述するのに、難しい言葉を使ってしまうのは自然な流れである。しかし、理想的には難しいことを記述するのに、わかりやすい表現を使うべきである。これが「良い評論文」である。そしてそこが著者の力量にかかるてくる。逆に簡単なことをわざと難しい表現にしてしまう著者もいる。これは読むに値しない評論文である。

論説文を読むときには、「著者の最も伝えたいこと(著者の意見・結論)」を読み取るのが主となる。それを選ぶときによく皆さん間違えてしまふベスト3は、

3 何を「読み取る」か?

著者の意見と対立する意見
引用した具体例
著者の意見と全く逆の意見

がある。ということは、背景には自分の考え方・意見が「伝わっていない（知られていない）」ということがある。「伝わっていない（知られていない）」から伝えようとするとあるのである。

だから評論文は簡単に言えば

一般的には（または××には）と思われている（言っている）が、実はである。

である。評論文はとと「著者の意見・結論」でできていると言つてもいい。これらを分類できれば「著者の意見・結論」が見分けられるし、その中から「最も伝えたいもの」を絞り込んでいけばいいのだ。しかし、「最も伝えたいもの」が一読して伝わらない文章 자체がよい文章とは言えないとだが、教科書や入試問題にはあえてそういうややこしい文章を載せている場合もある。

は一般的に「もっともだ」と思えるものが書かれてある。「もっともだ」と思うから、読者は自然と納得してしまい、「これが著者の伝えたいことだ」と思つてしまふ。しかし、著者はそれとは逆の対立することを伝えたいのがほとんどである。そうでなければその文を書く価値がないからである。

を選んでしまう理由はと同じで、わかりやすいからである。しかし、具体例を伝えたいといふ評論文はほとんど存在しない。具体例から結論を導き出すのが常だからだ。具体例を伝えたいという場合は評論文ではない。「事例集」「伝記」「日記」などというものである。

をどうして選んでしまうのかというと、表現、修辞法、言い回しを正確に読み取れないことから起る。たとえば、教科書に載っていた文章の初めの1行目に次のような文が載っていた。

ハヤリとシキタリは似ているところがある、
といつたら驚かれるだろうか。

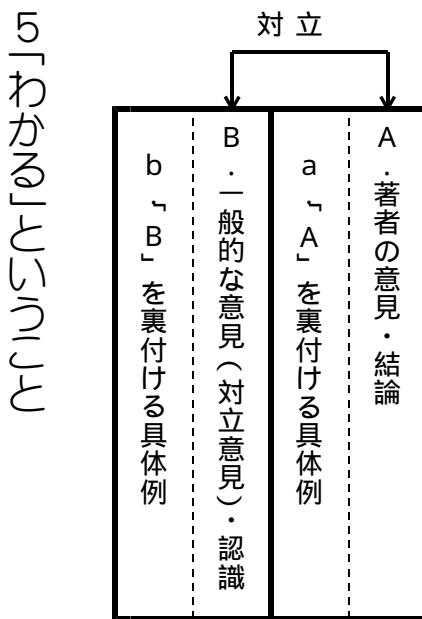
この文を正確に読み取れるだろうか？著者は次のうちどちらを言っているのか？

ハヤリとシキタリは似ている。
ハヤリとシキタリは似ていない。

一文一文を誤りなく読み取るといふことが基本なのだ。

4 表現者の気持ちになつてしまつ。

著者はどうしてその文章を書いたのか。言いえると、人はどうして表現するのか。それは「必要」だからである。表現することで自分の考え・意見を知つてもらいたい。訴えたいといふ気持ち



といふことは、文章を読む上でこの構造を把握すれば、「3何を『読み取る』のか？」の、「著者の意見・結論」を分けていけばいいことになる。

テスト問題で問われているものに対して問題文中のある部分を抜き出すだけという人が多い。そういう解答を見たとき、「あ、全然分かっていないんだな。」と思う。もちろん「抜き出しなさい」という問いは文中から抜き出せばいいのだが、それ以外の内容を問う記述問題で、それらしき部分を抜き出しているだけの場合は、抽象化・普遍化された著者の意見を理解できていない証拠である。

著者の伝えたいことを「わかる」といふことは、抽象的な表現を自分の身近な具体的な事例に当てはめられることがある。そうすると自分の普段使っている平易な言葉で言ふことができる。そこで初めて「わかる」といふことになる。これを目指して評論文を読めるようになって学んでいこう。